

## 四谷の

# 千枚田だより



第206号

### 食の原点「米」について学ぶ

十月十五日、豊橋調理製菓専門学校二年生(十四名)は新型コロナウイルス感染症(コロナ禍)リスクを回避するため、田植えから稲刈りまでの一連の実習は中止、本日、やっと脱穀を体験することができた。

同校は、平成十八年から四谷の千枚田を圃場とし、新城市鳳来総合支所地域課を窓口に着農を通して食の原点「米」を題材に田植えから脱穀までの一連の農作業を体験実習。将来、食のプロとなる学生諸君とともに、一粒の米が食糧の主食になるまでの過程を学んできた。

そこで、学生諸君に「四谷の千枚田の概要」と「知っとく」を当日の資料として私なり纏めてみた。

### 四谷の千枚田の特徴

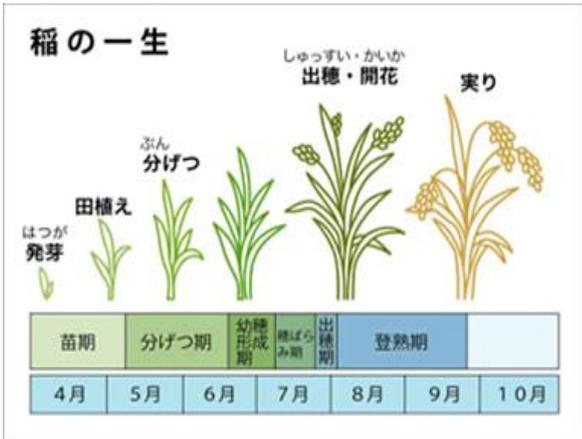
- ・鞍掛山に降り注いだ雨が浸透、湧き水となり棚田全部を潤している。
- ・稲架で天日干しをすることで美味しいお米が産出される。(この地域は中山間地特有な夜の夜露、朝霧が多く、稲架干し稲穂に降りかかり、ゆっくりと熟成され、美味しさが増す。
- ・地形は日本三大石積棚田の一つに

数えられて  
いる。  
・千五百万年  
前設楽火山  
の地殻変動  
が起因した

転石群と湧き水を利用して棚田が構築されてきた。

・かつては、約千二百枚の田んぼが耕されていたが昭和四十六年から同五十年までコメ余り対策の一環として年に二割の減反、転作を国から強いられた。減反政策と経済成長から平成元年には三百七十枚までに減少した。  
・現在は四百枚程度が保全管理されている。

### 稲の一生



- ・田植え 五月上旬
- ・中干し 六月中旬
- ・授粉期 七月中・下旬 今年は受粉期のほとんどが雨であった。その影響か、粒がやや小粒であった。場所、品種により実入りが少ない傾向がみられた。
- ・落水 八月下旬(廿日以降)
- ・稲刈り 九月初旬
- ・脱穀・籾摺り 湿度(乾燥)十四%を基準、それ以上の乾燥は胴割れが生じる。
- 知っとく
  - ・茶碗一杯(中盛り)のごはんの重さは約百五十g。お米(精米)だと約六十五g(炊く前のご飯は大人の茶碗だと約六十五g程度で、水を加えることで倍以上となる)これは、お米は炊くと一緒に入れた水を吸って膨らむため、ごはんの重さはお米の重さの約二・三倍になる。(品種や炊き方により違いはある)
  - ・茶碗一杯のお米の粒(約六十五g)は約三千二百五十粒。稲一株には約二十二本の稲穂がついており、一つの穂についている籾は約七十粒である。これを茶碗一のごはんの米の粒から計算すると、茶碗一杯のごはんは、 $3,250 \div 70 \div 21 \approx 21$ から、稲は約二、一株となる。
  - ・一杯ぶんを茶碗八分目と仮定すると、一杯〇、五合、大人の茶碗には百五十g、約二千七百粒が入っているということになる。

- ・「ご飯一杯」は白米の場合には二百五十g、カロリー、玄米では二百四十g、カロリーであり変りない。
- ・現在の日本ではお米の消費量が約半世紀の半分となっている。
- (1962年の調査では一人当たり年間118kgであったが、2015年には一人当たり年間54.6kgまで減少)。
- トビイロウンカの被害

梅雨時期に中国大陸からジェット気流に乗って飛来、増殖し続け、登熟期後半に被害をもたらす。愛知県では過去最大の二十回以上が飛来、東三河に大きな被害を齎した。千枚田のほとんどが「ミネアサヒ」で、他品種より成熟期(実り)がやや早いためか、被害は少なかった



**お知らせ**  
**恒例の「収穫感謝祭」はコロナ禍の状況を踏まえ、会員総意のもと中止します**

エコネットあんじょう視察対応  
 「エコネットあんじょう」は、安城市の環境課題に取り組む団体で、恵まれた環境を保持している「四谷の千枚田」には過去数回訪れ、環境保全研修・観察会等を実施、また、「四谷の千枚田」の環境活動をテーマに講演なども依頼され、安城まで出向いたりして心地よい関係を保っている。

その一環として十月三日、会員十



三名は千枚田を訪れ、石積棚田の稲架干しの風景を堪能したり、環境保全について質問、闊達な意見交換が成された。  
**子ども農学校 稲刈り体験**



J A 愛知東主催の第七回子ども農学校が九月二十六日、千枚田の一番高いところに位置する圃場(保存会顧問の高橋庄一)によるコメづくり指導、水管理)で稲刈りを行った。当日は児童五十六名が父兄、スタッフらとともに秋晴れの下、ノコギリ鎌(稲刈り鎌)で稲を刈ったり、サル稲架を作り、掛けたり、日頃行ったこともない農作業に父兄もスタツ

フもヘトヘト。元気だったのは児童だけであった。  
 この日収穫した米は「四谷のハザかけ米」として、十月二十四日市内 J A 直売所(グリーンセンターしんしろ)で、子ども農学校の子どもたちによって販売されました。  
**グッドプラクティス賞状の紹介**  
 既報 賞状はコロナウイルス禍の状況等を鑑み郵送されてきました。



**賞状**  
 グッドプラクティス  
 鞍掛山麓千枚田保存会  
 貴団体の取組は、生物多様性の保全と持続可能な利用の推進に大きく貢献するもので、愛知県と名古屋が主催するあいち・名古屋生物多様性ベストプラクティスにおいて優れた事例として選定されましたのでこれを賞します  
 令和二年十月十五日  
 愛知県知事 大村 秀章  
 名古屋市長 河村 たかし

**余剰米の出荷**  
 天候不順などによる不作に備え、棚田の百姓の多くは備蓄米を保管、新米ができて古米から食べる質素な風習がある。  
 十月二十一日、その、余剰米を「だ

んご」で有名な八雲だんごの鈴木社長さんは、千枚田保全に苦勞しているお百姓さんに少しでもお役に立てばと余剰米をお買い頂き、「千枚田五平餅」に加工、郵便局とタイアップ。宅配便として全国展開。耕作者は「おかげで新米がたべられるし、オカズも買える」と喜び、田んぼにお礼をと、早々と、干し草を運んだり、耕したり、棚田保全に頑張りを見せている。

**絵画コンクール審査**  
 既報(第二百一十号)  
 十月二十二日、四谷の千枚田絵画コンクールの応募作品の審査を行いました。詳細、結果等は次号に掲載予定。

**環境整備**  
 十月二十五日、保存会は秋の環境整備「草刈り」を実施、作業後の御日待は定番の鳥長の皮肝で一献。和気藹々の時間を過ごした。

**朗報**  
 七月一日、大雨土砂警報レベル3が起因した千枚田入り口付近の農道崩落箇所は今年度中に工事、完成の予定です。

行 令和二年十一月一日  
 鞍掛山麓千枚田保存会  
 発 文 責 小山舜二